



あさひやま どうぶつえんだより

みに

だい 140 ころ

ヒメギフチョウ

年に一回、早春に羽化する
園内では4月下旬から5月上旬にかけてにだけ成虫を観察することができる
アゲハチョウ科の「ヒメギフチョウ」は、絶滅危惧種の昆虫で、数が少ない珍しいチョウだよ。どんな一生なのか、2025年の春、園内で調べてみたよ。



2025年 4/24 成虫
陽のあたる場所でヒメギフチョウの成虫を見つけたよ。近くで3匹ぐらい、ヒラヒラととんでいたよ。



成虫はカタクリやエゾエンゴサクなど早春の花の蜜を吸って生き、繁殖相手を採すよ。

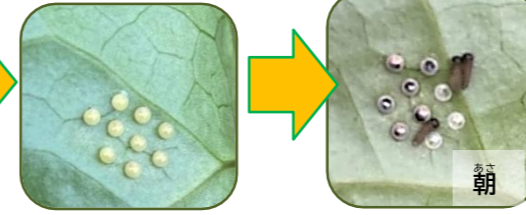
5/18 卵、発見!

「オクエゾサイシン」の葉っぱの裏に卵が9つ、きれいに並んで産みつけられていたよ。

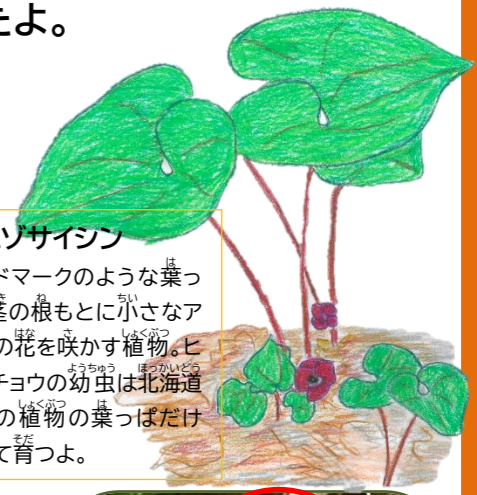


5/20 孵化

朝、幼虫が3匹孵化。夕方には9匹すべて孵化。体長2mmほど。



オクエゾサイシン
スベードマークのような葉っぱで、茎の根もとに小さなアズキ色の花を咲かす植物。ヒメギフチョウの幼虫は北海道ではこの植物の葉っぱだけを食べて育つよ。



2025年5月に幼虫が孵化してから10か月以上たったよ。地上の雪がとけて早春の花が咲くころヒメギフチョウは羽化するよ!



ヒメギフチョウの一生 まとめ

- 卵は葉っぱの裏に複数個まとめて産む。
- 孵化した幼虫たちは、しばらく一緒に行動し、1枚の葉っぱをみんなで食べる。食べ終わったら、次に食べる葉っぱに移動するが、成長するにつれ、群れが小さくなる。
- 幼虫にはたくさん毛がはえている。
- 暑くなる夏の前に落ち葉の裏などでサナギになる。羽化は翌年の春。



6/8 威嚇してきた!

朝、幼虫を観察しに行くと、幼虫は葉っぱの裏にいたよ。葉っぱを静かにめくると、頭から黄色いツノ(臭角)を出して、威嚇してきたよ。体長は2cmぐらい。

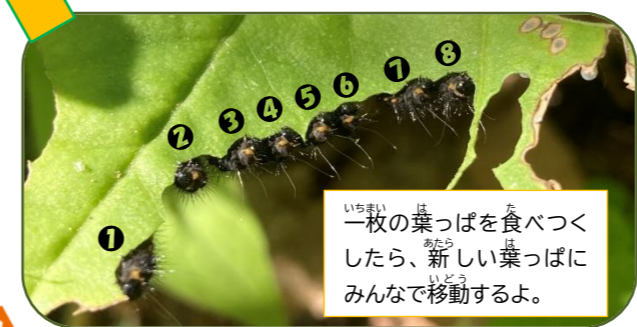
臭角(しゅうかく)

アゲハチョウの仲間の子供の頭部と前胸部の間から出る臭いを放つ器官。危険を感じるとツノのようにニョキッと出てくるよ。



6/2 みんなで並んで食事中!

8匹の幼虫が並んで葉っぱを食べていたよ。もう1匹も葉っぱの裏にいたよ。



5/31 幼虫

食痕がある葉っぱをめくると、9匹で寄りそっていたよ。ヒメギフチョウの幼虫は、生まれた葉っぱをみんなで一緒に一枚ずつ食べて育つのがわかったよ。



複数で一緒にいることで身を守っているんだね!

6/1 脱皮を確認

葉っぱをめくったら幼虫が脱皮して少し大きくなっていったよ。毛がはえていて、体に白い線、体の横に黄色い模様が出てきたよ。体長は1cmぐらい。



6/18 サナギ

落ち葉の裏でサナギになったよ。サナギの大きさは2.5cmぐらい。サナギのまま夏、秋、冬をすごすよ。



「ヒメギフチョウ」のように幼虫時代に体にたくさん毛がはえているのはどれ?



こたえは②エゾシロチョウだよ。年に一回6月上旬に羽化するエゾシロチョウの幼虫の体には、たくさん毛がはえているよ。

